



子ども大学かわごえ

CUK だより

第13号 NO.1010

2010年10月14日

価格とは、何かを買うときに支払うもの。価値とは、何かを買うときに手に入れるもの。
ウォーレン・バフェット

9月25日(土) 第1限授業 「お金はどこから来てどこへ行くの？」
酒井一郎氏 (早稲田大学産業経営研究所特別研究員)

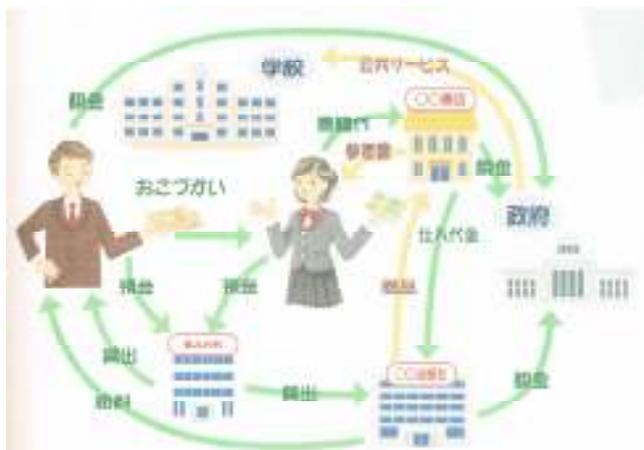
最初お願いしていたファイナンシャルプランナーの中井裕子さんの都合が悪くなったため、ピンチヒッターとしておなじみの酒井一郎事務局長が同じタイトルの話をしました。今日は学生131人と保護者が約100人授業に参加しました。

お金はどこからどこへ行くの？1000円札や10,000円札は独立行政法人(どくりつぎょうせいほうじん)国立印刷局(東京)で印刷され、日本銀行から一般の銀行や会社へ配られ、さらに世間へ船出します。ボロボロになったら日本銀行へ返され、処分されます。10円や100円の硬貨は独立行政法人造幣局(大阪)で造られ、財務省(ざいむしょう)を経て市中へ出され、すりへってしまったら財務省へもどってきます。これがお金の一生です。



では、お金はいつ生まれたのだろうか？大昔の石器時代にはお金はありませんでした。漁師が釣ってきた魚を百姓がつくった野菜と直接交換するという物々交換(ぶつぶつこうかん)のやり方でした。しかし漁師と百姓が同じ時に市場へ来て肉と野菜をうまく交換できるかどうかわかりません。タイミングが合わないと、どちらの品物も交換できず腐ってしまいます。そこで交換したい相手がすぐ見つからなくても何か他の品物に交換しておくようになりました。他の品物とはだれでも欲しがらるもので、腐らないものです。キラキラ光る貝や布や石や家畜などで、**物品貨幣**(ぶつびんかへい)といわれています。この物品貨幣が時代が下るとともに、**金や銀の貨幣**になります。多額のお金を運ぶのに金貨や銀貨は重くて扱いにくいので、さらに**紙幣**が流通するようになりました。日本では**1000円**や**10000円**の紙幣がありますね。このようにお金は生まれてから紙幣へと育ってきました。現代では**クレジットカード**や**キャッシュカード**がお金として広く使われています。さらに、エディ、スイカなどという**電子マネー**も出てきました。お金は将来どういうように育って(変わって)いくのだろうか？

お金は生まれてからお墓へ行くまでに国中・世界中をぐるぐる巡っていきます。お父さんやお母さんが働いて稼いできたお金から君たちはおこづかいをいただきます。それを色々なものを買うために使います。本を買ったらそのお金は本屋へ行き、本屋はそれを使って印刷所から本を仕入れます。一方、本屋や印刷所ではそこで働く人たちにお給料を払います。(その一部がおこづかいとして君たちのポケットに入るのです)。また、それらの会社は税金を政府へ納めます。お父さん、お母さんもお給料の中から税金を払います。



日本の中には沢山の会社があり、物を作ったり売ったりして、お金を稼ぎます。さらに、約 5000 万の家庭があり、お金を稼ぎ使います。その他に政府が税金を集めて、それで学校を建てたり道路を作ったりしてお金を使います。この3つのお金を稼いだり使ったりする経済グループを**経済主体** (けいざいしゅたい) といい、順番に**企業、家計、政府**と呼びます。お金はこれらの経済主体の間をぐるぐる動きまわって働いているのです。ただし、お金はただむやみに動き回っているわけではなく、次の3つの役割をはたしています。

- ①交換の手段 (お金と品物、お金とお金=外国のお金)
- ②価値の尺度 (物のねだんを決めて交換を助ける)
- ③貯蓄の手段 (貯金をして必要な時に使う)

現在の資本主義 (しほんしゅぎ) の社会では何をするにもお金がかかります。ですからお金はなくてはならないものです。世のなかには金持ちと貧乏な人がいます。どうしたらみんな豊かで幸せな生活を送ることができるのだろうか？日本の国民が1年間に働いて稼ぐお金の合計が**GDP (国民総生産・こくみんそうせいさん)** と呼ばれます。日本は今GDPの2倍に当たる**900兆円**の借金を抱えています。でも、どうして破産 (はさん) しないのだろうか？不思議ですね。

そうしたことを研究するのが**経済学**という学問です。大学へ行けば習いますが、中学や高校でも社会科の授業のなかで習います。酒井先生は授業の中で日本の経済の現状や歴史を難しい言葉を使って説明しましたが、将来同じような言葉に出会ったときに突っ込んで自分で学習をしてくださいとおっしゃっていました。

第2限授業「なぜ税金を納めなければならないの？」

飯島経営グループ 代表理事 税理士 飯島賢二氏

「今日は、税金のお話をしますが、とてもむずかしいですよ」と、税理士の飯島先生がみんなを見渡しました。さっそく質問です。「どんな税金があるか知っている人！」みんなは「所得税」「法人税」「酒税」といろいろ答えました。

先生のお話が始まりました。「税金にはたくさんの種類があります。その中で国に納める税金と地方 (例えば埼玉県、川越市など) に納める税金があります。国に納める税金は22種類あります。所得税は働いてもうけたお金にかかる税金です。もうけが多くなるほどたくさんのお金を払う仕組みになっています。法人税はどんなに所得が多くても少なくとも一定の税率です。みなさんは税金を払ったことがありますか？」「消費税です」みんなの声が上がりました。「消費税は、例えば100円で商品を買くと105円払います。この5円が消費税です。5%が税率です。」

ホワイトボードに“5, 10, 17, 20, 25”と、数字が書いてあります。「消費税5%の国が日本です。10%は韓国です。17%は中国、20%はイタリア、25%が社会福祉が整備されていると言われるデンマークです。実はデンマークは消費税が一番高く、日本が一番低いのです。アメリカ合衆国は州によって法律が違いますので、州ごとに税率も違います」



「みなさんが払った5%の消費税は、4%が国に1%が地方に入ります。国の税金は税務署が集めます。税務署は全国に524カ所、埼玉県には15カ所あります。いろんな税金が税務署に入ります。消費税は1年間でどのくらい集まると思いますか？ 9兆円なんです。1兆円でどのくらいだろう。10兆円だと何ができるのか。9兆円なんて想像もできませんね。それが私たちの一番身近な消費税という税金です」

先生はお話を続けます。

「もし税金がなかったらどうでしょう。みなさんが通っている公立の学校はすべて税金でまかなわれています。全国に小学校は2万2千258校あります。そのうち90.6%が公立の学校です。小学校を1校つくるのに平均で13億円かかります。公立の授業料は無料です。1年間で小学生1人あたり83万8千円、中学生95万7千円、高校生94万6千円かかり、小学校6年間、中学校3年間、高校3年間の12年間で1人あたり1千万円ちょっとかかります。これも税金でまかなっているのです。」

「警察、消防、救急車、これらはいざというときに役立ってくれます。これも全部税金です。もし税金がなかったら、泥棒をお巡りさんにつかまえてもらうにもお金を請求されてしまいます。病院は一部の自己負担をのぞくと市民1人あたり8万4200円になります。それ以外にも予防注射や年金やいろいろ税金でまかなっています。税金がなかったら大変だと思いませんか」

「税金の使い道はどう決めるのでしょうか。国会議員が国会で相談して予算が決まります。集まった税金は税務署から財務省にいきます。そして財務省から国や県や市町村に分けられます。それ以外に国や県が直接税金をもらう地方税があります。それも含めて地方の予算も議会で決めます」先生のお話は進みます。

「国や地方の税は、国民が医療を受けるときの費用の補助にもなります。また、災害救助の補助や海外援助のためにも使われます。快適な暮らしのために、自然環境の保護や住民の安全を守る“まちづくり”に税金は使われています。上下水道の管理もそうです。税金がいろいろなところで私たちの役に立っていることが分かってきたかな？」先生の言葉にみんなはうなずきました。

「憲法（国の根本の規則）には、国民の権利がたくさん書かれています。でも義務は3つしかありません。教育の義務、勤労（きんろう）の義務、納税（のうぜい）の義務です。税金を納めるのは国民の義務なのです。だから税はなるべく平等に納められるようになっ



ています。税はみんなが健康で安全な生活を送るのに欠かせないのです。みなさん税金に興味を持ってくださいね」

「日本は資源の無い国です。それで技術力で良いものをつくって外国と取引をして、少しずつ豊かになっていきました。みんなも一生懸命に勉強して、この豊かさが続くようにがんばってもらいたいのです。そのためにも1千万円の税金を教育にかけているのです。勉強が嫌いな人もいるかもしれませんが、これだけは負けないぞ、ということが必ずあるはずです。ぜひ得意なものを見つけて、それを伸ばすための勉強をしてください。消費税も学校の費用や医療やいろいろ形を変えて返っているはずですよ」と先生は最後にみんなに呼びかけられました。

連絡事項

1. 今月23日(土)授業

23日は当初の予定では、富士通(株)環境本部環境企画統括部の畠山義彦氏により「パソコンを分解して知る、これからの環境と未来」というテーマの授業をしていただくことになっていましたが、受講生が172人に増えたため教室の手配などが上手くいかず、授業の中身が変わります。それにともなって、次のように教室も東洋大学理工学部(川越キャンパス)5号館へ変更になります。

1) 授業のタイトル

生物多様性(せいぶつたようせい)に関する環境問題(ゲームを交えて)を考える
～地球環境カードゲーム My Earth で学ぶ生物多様性～

2) スケジュール

午後1時半受付、1時50分までホームルーム、2時、1時間目授業:生物多様性とMy Earthのやさしい説明、3時、2時間目授業:ゲームと結果発表、4時終了

3) 教室

東洋大学理工学部(川越キャンパス)5号館1階512教室

(川越キャンパスには立派な学生食堂があり利用できます)

ご存知の通り、今月11日から3週間にわたって第10回生物多様性条約国会議COP10が名古屋で開催されます。上記の授業はこれに歩調を合わせたもので、タイムリーなテーマとなっています。そのうち日程を調整して「パソコンを分解して知る、これからの環境と未来」の授業を追加実施することを検討しています。

2. 埼玉県NPO大賞

この賞については同封のチラシをご覧ください。何とか大賞をとりたいと思いますので、みなさまのご協力をお願いいたします。

3. CUKコミュニティ・デジタルネットワーク

保護者向けメーリングリストに不備があり、特にPCメールをお持ちの方々に大変な不便をおかけしました。事情の説明とお詫びの連絡を新しいメーリングリストを使って行いますので、ご理解とご協力をお願いいたします。

子ども大学かわごえ

学長 遠藤 克弥

事務局

NPO法人子ども大学かわごえ

〒350-1109 川越市霞ヶ関北3-12-6

霞ヶ関北自治会館内



H-P <http://www.cuk.or.jp>

TEL 080-2053-2991 (事務局直通)

FAX 049-233-1640F

E_MAIL info@cuk.or.jp